

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.54
2020
[January]

1 月号



特集 自工会 12月度定例会長記者会見

2019モータースポーツを締め括る


2019から2020年 全国規模でモーターショー開催


自動車博物館関連施設紹介シリーズ **ダイハツ工業/ヒューモビリティワールド**

JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会

2020年1~3月主要自動車関連イベント



 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内主要イベント

日時	場所	名称
1月 10-12日	千葉県 幕張メッセ	東京オートサロン2020
15-17日	東京都 東京ビッグサイト	第12回 オートモチーフワールド
17-19日	北海道 札幌ドーム	札幌モーターショー2020
1月31日-2月2日	千葉県 幕張メッセ	ジャパンキャンピングカーショー2020
2月 14-16日	大阪府 インテックス大阪	第24回 大阪オートメッセ2020
22-23日	神奈川県 バシフィコ横浜	第12回 ノスタルジック2デイズ
22-24日	宮城県 夢メッセみやぎ	第12回 東北モーターショー in 仙台 2020
3月 20-22日	大阪府 インテックス大阪	第36回 大阪モーターサイクルショー2020
27-29日	東京都 東京ビッグサイト	第47回 東京モーターサイクルショー

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
3月 13-15日	愛知県 新城市	 全日本ラリー選手権 第2戦 新城ラリー2020
22日	三重県 鈴鹿サーキット	 スーパー耐久 第1戦

※全日本ラリー選手権 第1戦は開催中止

海外主要イベント

日時	場所	名称
1月 7-10日	アメリカ ラスベガス	CES2020
16-19日	オーストリア ウィーン	ウィーンオートショー2020
3月 5-15日	スイス ジュネーブ	ジュネーブモーターショー

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
1月 5-17日	サウジアラビア	 /  ダカールラリー2020
18日	チリ オヒギンズ公園特設コース	 Formula e 第3戦 サンティアゴe-PRIX
23-26日	モナコ/フランス	 WRC 第1戦 ラリー・モンテカルロ
2月 15日	メキシコ エルマノス・ロドリゲス・サーキット	 Formula e 第4戦 メキシコシティe-PRIX
13-16日	スウェーデン/ノルウェー	 WRC 第2戦 ラリー・スウェーデン
22-23日	アメリカ サーキット・オブ・ジ・アメリカズ	 WEC 第5戦 ローン・スター・マン
29日	モロッコ マラケシュ市街地コース	 Formula e 第5戦 マラケシュe-PRIX
3月 8日	カタール ロサイル・インターナショナル・サーキット	 MotoGP 第1戦 カタールGP
15日	オーストラリア アルバート・パーク・サーキット	 F1 第1戦 オーストラリアGP
12-15日	メキシコ	 WRC 第3戦 ラリー・メキシコ
20日	アメリカ セブリング・インターナショナル・レースウェイ	 WEC 第6戦 セブリング1000マイル
21日	中国 三亜市街地コース	 Formula e 第6戦 三亜e-PRIX
22日	バーレーン バーレーン・インターナショナル・サーキット	 F1 第2戦 バーレーンGP
22日	タイ チャン・インターナショナルサーキット	 MotoGP 第2戦 タイGP

JAMAGAZINE 2020年 1月号

発行日 2019年12月27日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02

特集

自工会 12月度定例会長記者会見

06

2019モータースポーツを締め括る

11

「2019年JAFモータースポーツ表彰式」開催

12

オートカラーアワード2019

14

2019から2020年 全国規模でモーターショー開催

16

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

ダイハツ工業／ヒューモビリティワールド

17

記者の窓

「いつかは納得したいトロッコ問題」 日刊工業新聞社 渡辺 光太

- 1 自工会 豊田章男会長
- 2 自工会 12月度定例会長記者会見
- 3 2019モータースポーツを締め括る
- 4 「2019年JAFモータースポーツ表彰式」開催
- 5 オートカラーアワード2019
- 6 2019から2020年 全国規模でモーターショー開催
- 7 ダイハツ工業／ヒューモビリティワールド

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



2020年 モノづくりの力を磨き続け 新たな仲間と未来を 目指していく



豊田章男会長

自工会は2019年12月19日、定例会長記者会見を開き、2019年の振り返りと2020年に向けての方針を示しました。

2019年の振り返りでは、度重なる自然災害への対応と、交通事故ゼロへ向けた想いを語ると共に、来場者数100万人を超えた東京モーターショーにも触れ、さらに充実した形での今回の東京モーターショーへの期待を語りました。

また、2020年に向けては、日本のモノづくりを守るための税制の抜本の見直しを示しました。

一東京モーターショー2019

■来場者130万人超え

東京モーターショーでは、100万人の目標に対し、130万人のお客様にご来場いただくことができました。目標を掲げた時、自信があったかと言われれば、自信も確信もございませんでした。

ただ、100万人の目標値と

ともに、我々が伝えたかったこと

は、「自動車産業だけではなく、多くの仲間と共に未来を作っていく」といえない。「そのためにモーターショーを本気で変えていこう」とそんな想いがございました。それが多くの方に届き、「東京モーターショーに行ってみよう」という気持ちになっただけなのではないかと思えます。

私も、会期の半分くらいは、現場にすることが出来ました。社会科見学の小学生たち、多くの親子連れ、中には、若いカップルがデートなど、今までの東京モーターショーでは見ることのなかった光景が見られました。来場者の数よりも、これが本当に嬉しい結果であったと思います。

また、ほんの一件のツイートですが「モーターショー楽しかつ

た。今迄クルマに興味なかったけど、帰りに中古車を見ていこう」こんな結果こそが、私たちの求めていたものなのだと思います。

■メーカー各社がワンチームで

一方で、展示棟に入るための長い行列や、会場間のバス不足などせっかくお越しいただいたお客様に、ご不便もかけてしまいました。こうした事実についても、メディアやSNSなどからリアルタイムに見られたおかげで、我々も、即時に対策を取ることができたと思います。最後まで、お客様のストレスをゼロにすることはできませんでしたが、各社が持っているバスをかき集めるなど、お客様が笑顔になれることが起きた時、自動車メーカー各社がワンチームで、お客様の方だけを向いて即



断即決で対応を決めてまいりました。会社の壁を越えて、こうした動きができたからこそ、130万人だったとも思います。次の開催は2021年。お礼の広告でも書きましたが、「お客様」の想像を遥かに上回るような未

「2019年は度重なる自然災害に」

■クルマの給電機能

新しい時代の幕開けとなった年でしたが、振返れば、度重なる自然災害や社会問題化する交通事故事故など、明るい気持ちばかりはいられない年でもありました。被災された方に、我々は何が出来るのか、何をすべきか、改めて、深く考えさせられた1年であったような気がします。

災害が起きた時、車の給電機能が役に立つ。我々も、頭では、そのことを分かっております。ですが、実際に災害が起きたとき「給電できるクルマが、どこにどれだけあるのか」「それを現場で使いこなせる人材は、どれだけののか」「実は、私自身もプラグインハイブリッドを持っていながら、その車に給電機能が付いていたのか、どうしたら使えたのか、実は分かっ

来」を提案していかないといいません。そんな気概をもって、準備を進めてまいります。2020年は、オリンピックバリンピックの年、東京を舞台にした自動運転の実証実験も始まってまいります。技術を更に高めていき、

ておりませんでした。災害時、自動車、皆さまのお役に立つべく、くためには、電動車の更なる普及、

「交通事故ゼロ目指す」

■より安全、安心な…

また、「交通事故ゼロを目指すこと」、これも自動車に関わる全ての人に共通した願いだと思っております。事故ゼロに向けた技術は「どこが先に出す」というような競争する領域ではございません。むしろ、同じ思いを持って、協力し合っております。届けることができると考えております。

個社の話で恐縮ですが、トヨタは50年ほど前に、交通事故死者を吊い、安全を願うためのお寺を建立いたしました。年に一

次回のモーターショーでは、自動運転車両が会場間を走ったり、開催する町全体が体感ブースになっているような、そんなモーターショーを実現できればと思っております。ご期待いただきたいと思えます。

給電機能の装着率向上もありますが、それと共に、先ずは我々自身も機能を理解し、分かりやすくお伝えしていかないといけないということが大きな反省です。

度、販売店や仕入先も、そこに集まり、鎮魂と安全を祈る行事を開催しております。交通事故が話題となった今年、トヨタ以外のメーカーからも、このお寺の意義に共感いただけた方が、慰霊祭に参画いただきました。せっかく同じ場に集まれたということで、自動車メーカー、部品メーカー、保険会社、販売店、多くの関係者で、一堂に介し、事故ゼロの実現に向けて話し合う場も初めて設けることができました。より安全で、安心な、そして、すべての人が移動することを楽し



める、そんなモビリティ社会の実現に向けて、来年以降も、みんなで取り組みを加速させていければと考えております。

「様々な地域でお役に立ってるモビリティを」

■マツコデラックスさんが来場

モーターショーでは、マツコデラックスさんにも、いろいろご協力をいただきました。マツコさんが会場内を徘徊するという番組の企画が始まった時、我々からは、新たな取り組みである「FUTURE EXPO」などを取り上げてもらいたいとマツコさんに申し上げました。しかし、マツコさんは「各社のブースをまわりたい」それも「乗用だけでなく、バイクやトラックも」とおっしゃられたそうでございます。二輪や大型も、と言ってくださったことに對し、私は、とてもうれしく思いました。

■大型、二輪、軽もある

我々の産業は、大型もあり、二輪もあり、軽もある。日本の文化や道で育まれてきたからこその特徴であり、これがあつたからこそ、世界の様々な地域でお役に立ってるモビリティをつくれているのではないかと思っております。各社の電動車を見渡せば、EV、FCV、PHV、HVと

フルラインナップが揃っております。どんな地域でも、人々の生活や環境にあつた電動車を提供することができる、そして、その普及を通じて、地球のためにも、お役に立っている、そう考えております。CASEの流れは、思っている以上に急速に進むかもしれません。しかし、世の中がどう進むとも、我々の武器が、モノづくりの力であることは変わらないと思っております。リアルの世界を持っているか

「日本の自動車税制」

■まだアメリカの30倍レベル

もう一つだけ言わせていただければと思います。税制についてです。モノづくりを守っていくためにも、税制のことは、更に力をいれてやっていきたいと考えております。先々月、税制は変わりました。ですが、何度も申し上げているとおり、まだまだアメリカの30倍のレベルです。繰り返しますが、我々は、なんとしても日本のモノづくりを守っていききたい。

からこそ、様々な産業からも仲間になっていこうと言っていただけ。

■新たな仲間とも一緒に

そして、多くの方が笑顔になれる未来に向け、努力をしていけるのだと思っております。2020年も、モノづくりの力を磨き続け、新たな仲間とも一緒にいければと考えております。よろしくお願いたします。

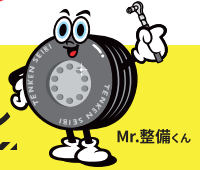
その力は、絶対に、お国のためにも、役に立つ力になってまいります。CASEが進んでいけば、所有だけでなく、利用、活用と、クルマの存在の幅は広がります。税制も、抜本的な見直しを考えていかないとけません。我々自工会も考えてまいります。ぜひ、そうした議論も進んでいく2020年にしていければと考えております。

(会長挨拶から抜粋)

● 落ちない! 車輪キャンペーン ●

大型車の 車輪脱落事故

0へ



徹底しよう! 大型車の車輪脱落を防ぐ4つのルール

お

きまりの
トルクで
きちんと
締め付けて

規定のトルクで確実な締め付けを

締め付け方式には、球面座で締め付けるJIS方式と平面座で締め付けるISO方式があります。「規定の締め付けトルク」で確実に締め付けます。

※ホイールナットの締め付け不足、締め忘れ防止のため、ナット締め付け作業時(終了後)、「規定の締め付けトルク」で確実に締め付けたことを確認するよう、お願いします。



ち

やんと
増し締め
交換後

50~100km走行後に、 しっかり増し締めを

締め付け後は初期なじみによってホイールナットの締め付け力が低下。50~100km走行後を目安に、増し締めしてください。



JIS方式(球面座)
ダブルタイヤの場合

1
アウターナット
を締めます。



2
インナーナット
を締め付けます。



3
アウターナット
を締め付けます。



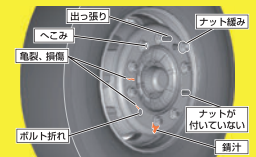
※これらの図は右側タイヤの場合です。

な

(ナット)
つと見て
ボルト触って
さあ出発!

一日一回の日常点検を

運行前にホイールボルト、ナットを目で見てさわって点検してください。異常を発見したらすぐ整備工場へ。



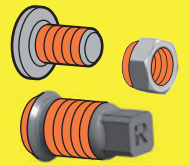
い

や待てよ?
ボルトと
ナットは
適正か?

ホイールに適合したボルト、ナットを

スチールホイール、アルミホイールの履き替えには、それぞれ適合するホイールボルト、ナットの使用が必要です。必ずご確認ください。

※JIS方式では、アルミホイール(スチール)用のホイールボルト、ナットで、スチールホイール(アルミ)は履けません! ISO方式では、スチールホイール用ホイールボルトで、アルミホイールは履けません!



!

左後輪に注意!

車輪脱落の多くが、気がつきにくい「左後輪」で発生しています。左後輪の点検は重点的に行ってください。



ホイールやホイールボルトの錆に注意!

ホイールやホイールボルト、ナットの著しい錆によると思われる車輪脱落が発生しています。著しい錆のあるホイールやホイールボルト、ナットは、交換してください。



詳しくは、
こちらから!



国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る連絡会 日本自動車工業会(いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラック) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会



トヨタ、日産、ホンダ、マツダがファン感謝祭 クルマの楽しさ、魅力を探求



■各メーカーの技術力をPR

1年間の応援をありがとう。2019年のモータースポーツシーンを締めくくる自動車メーカー各社によるファン感謝イベントが11、12月にかけて行われました。今シーズンを戦ったレーシングカーやドライバー、監督らが一堂に会し、往年の名車を含むさまざまなカテゴリーマシンによるデモ走行、ドライバー、監督によるトークショー、同乗体験、子供向けプログラム、グッズ販売など多彩な催しが行われました。コアなファンからファミリー層まで幅広い世代にモータースポーツやクルマの楽しさ、魅力を訴求するとともに、メーカー各社の市販車、技術力をアピールする機会にもなりました。

トヨタガズーレーシングが手がけるスポーツカーブランド「GR」のグローバルモデル第2弾「GRヤリス(テストカー)」を世界初公開



1991年のル・マン24時間耐久レース優勝車マツダ「787B」と、92年の同レースで準優勝を果たしたトヨタ「TS010」のランデブー走行が実現



これぞ「オールジャパンレーシングフェスティバル」



歴史を彩る往年のレーシングマシンも数多く展示されました

トヨタガズーレーシングフェスティバル(TGRF)

復活した「GRスーパー」登場

トヨタ自動車は12月15日、静岡県小山町の富士スピードウェイで、「トヨタガズーレーシングフェスティバル(TGRF)」を開催しました。世界ラリー選手権(WRC)やニルブルクリンク24時間レース、スーパーGTなど、国内外のさまざまなカテゴリーを戦ったレーシングカーやドライバー、監督らが集結。今年17年振りに復活した「GRスーパー」をベースにしたマシンも登場しました。



将来のクルマファンを作る取り組みも

Supra is Back。主役の1台となったのがGRスーパーです。ニルブルクリンク24時間レースや米国の人気レース「ナス

カー」、ドリフトのD1グランプリに参戦したマシンに加え、来シーズンのスーパーGTを戦うニューマシンも登場。デモ走行を披露しました。

■モリゾウからビデオメッセージ

今年のTGRFはマツタ、スバル、日野自動車、ニッサンモータースポーツインターナショナル(ニスモ)が参加したことも特徴です。タイ出張中で参加できなかったモリゾウは「もうTGRFを名乗るイベントではないと思う。オールジャパンレーシングフェスティバルだ」とのビデオメッセージを送りました。

GRカンパニーの友山茂樹プレジデントはセレモニーの挨拶で「クルマがこれからもずっと心ときめくエキサイティングな存在であるために、メーカーの枠を乗り越えて、また、チームの枠を乗り越えて一緒に協力していきたい。応援よろしくお願いします」と来場者に呼びかけました。

日産モータースポーツヘリテージランの様子



歴代GT-RとZ、ニスモロードカーによるパレードラン



往年のル・マン24時間レース参戦車も展示された



ガレージセールは恒例の人気プログラム

ニスモフェスティバル at FUJI SPEEDWAY 2019

「GT-R」と「Z」が注目の的

ニッサンモータースポーツ・インターナショナル(ニスモ)は12月8日、静岡県小山町の富士スピードウェイで「ニスモフェスティバル at FUJI SPEEDWAY 2019」を開催しました。今年

は「GT-R」「フェアレディZ」の生誕50周年に当たる節目の年。両車オーナーによるパレードランや撮影会、往年のレーシングカーによるデモ走行などが行われました。

「日産モータースポーツヘリテージラン」では、日産のモータースポーツ活動の歴史を築き上げてきたGT-RとZのレーシングマシン

ンが往年の走りサウンドを披露。歴代GT-RとZ、ニスモロードカーによるパレードランには「ハコスカ」といった名車から「ニスモ400R」といった希少車まで総勢138台が集結しました。初実施となったのがGT-RとZのチューニングカーによる「タイムアタックエキシビジョン」です。有名チューナー5社が作り上げたフルチューンマシンが登場しました。

■電気駆動のフォーミュラE展示

ビットガレージでは往年のレーシングカーなどが展示されました。今シーズンを戦った最新マシンに加え、70年代のツーリングカーやグループCカー、電気駆動のフォーミュラEが展示されました。

グラウンドスタンド裏の広場ではレースで実際に使用されたパーツなどを販売するニスモフェスティバル恒例のガレージセールのほか、ニスモグッズの即売会も行われ、お目当ての商品を求める多くのファンで賑わいました。



子供が楽しめるプログラムも数多く用意

スーパーフォーミュラのデモレース



元F1ドライバーのデビッド・クルサード氏がアストンマーチンレッドブルレーシング「RB7 (19年カラーリング)」をデモ走行



スーパーGTラストランとなったジェンソン・バトン選手



サイン会は大盛況

ホンダレーシングサンクスデイ2019

世界で活躍中の ドライバー、ライダーが集結

Hondaは11月10日栃木県茂木町のツインリンクもてぎで「ホンダレーシングサンクスデイ2019」を開催しました。F1ドライバーのダニール・クビアト選手やインディカードライバーの佐藤琢磨選手、モトGPライダーのカル・クラッチロー選手など世界中で活躍するHondaのドライバー／ライダーが一堂に集結。2019年シーズンの声援に対し感謝の気持ちを表しました。

四輪と二輪の両カテゴリーのマシンがデモランするのもHondaならではのプログラムです。レッドブルF1マシンのデモ走行や今シーズンのスーパーフォーミュラ、スー



往年のF1マシンも展示、デモ走行も行った

パーGTシリーズを戦ったマシンによるデモレースを実施。19年限定でスーパーGTを去る元F1ワールドチャンピオンのジェンソン・バトン選手のラストランともなりました。

19年はHondaが1959年にマン島TTレースに出場して60年の節目の年でした。イベントではHondaモータースポーツの歴史を彩る名車のデモランも行われました。

佐藤選手がステアリングを握ったのは1988年に故アイルトン・セナ選手とアラン・プロスト選手を擁すマクラーレン・Hondaが年間16戦中15勝を成し遂げた「マクラーレン・Honda MP4/4」。クラッチロー選手は「NSRR500」「RCR213V」をライディングしました。

■セレモニーに八郷社長が登壇

オープニングセレモニーでは八郷隆弘社長が登壇。「Hondaはこれからもモータースポーツで勝ちにこだわり、勝つことに挑戦していく」と宣言しました。

生誕30周年を迎えたロードスターによるワンメイクレース



デモ走行に備える787B(左)と767B(奥)



もの作り体験コーナーには多くの子供たちが集まりました



スカイアクティブXの技術説明も行われました

マツダファンフェスタ2019 in 岡山

マツダ車の魅力を味わう

マツダファンが集う年1度のビッグイベント「マツダファンフェスタ2019 in 岡山」が11月23、24日の2日間、岡山県美作市の岡山国際サーキットで開催されました。走る喜びを提供するマツダブランドならではの走行プログラムを数多く実施。技術展示ブースも設けるなど、ファンとメーカーが一体となってマツダ車の魅力を味わうイベントとなりました。

マツダは特別協賛としてイベントをサポートしています。多くの参加型レースを行うのが同イベントの特徴の一つで、初心者からベ

テランまで参加できる耐久レース「マツダファン・エンデュランス」、JAF公認タイムアタック「マツダファンサーキットトライアル」などが行われました。

往年のレーシングカーによるデモ走行もイベントを盛り上げました。1991年のル・マン24時間レースで優勝した「マツダ787B」は、ミスタールマンこと寺田陽次郎氏がドライブしました。

技術展示、体験コーナー「Be a driver. Experience. Joy」も人気プログラムです。マツダの社員が説明員となってユーザーと直接触れ合うもので、パワートレイン技術展示では独自の燃焼技術「SPCCI」を採用した「スカイアクティブX」の技術説明を行いました。

■体験ブースが子供たちに人気

マツダのもの作りを体験できるブースには多くの子供たちが集まり、製造スタンプの製作やヘッドカバー磨き、オリジナルプレートを作るプレス加工を体験しました。



ロードスターの歴代開発責任者によるトークショー

(11月29日)

「2019年JAFモータースポーツ表彰式」開催



各カテゴリーの表彰者



スーパーGT (GT500) の表彰者たち。チャンピオンは大嶋和也選手 (右から2番目) と山下健太選手 (同3番目)



スーパーフォーミュラチャンピオンのニック・キャンディ選手

各カテゴリーの年間チャンピオンドライバーやチームが一堂に揃う

日本自動車連盟 (JAF、藤井一裕会長) は11月29日、都内のホテルで「2019年JAFモータースポーツ表彰式」を開催しました。入門カテゴリーのレーシングカートから国内最高峰のスーパーフォーミュラ、スーパーGTまで、各カテゴリーで年間チャンピオンを獲得したドライバーやチーム関係者らが一堂に顔をそろえました。

表彰された 主なチャンピオンドライバー (敬称略)	
スーパーフォーミュラ	ニック・キャンディ
スーパーGT (GT500)	大嶋和也 山下健太
スーパーGT (GT300)	高木真一 福住仁嶺
F3	サッシャ・フェネストラズ
F4	佐藤蓮

年間表彰を主催するJAFですが、モータースポーツ業務は多岐に渡ります。ライセンスの発給や規則の制定など、モーター

■底辺拡大に努める

モータースポーツは「走る実験室」と言われます。コンマ1秒を競う極限状態で行われるレースは勝っても負けても改善活動の連続。ライバルに打ち勝つための厳しいプロセスを経ることで、技術は磨かれ、人が育つのです。一方、モータースポーツが「スポーツ」である以上、そこには人間の戦いが存在します。日々の努力を重ね、運をも味方にしたものだけがチャンピオンの称号を得ることができません。

■チャンピオンの意味は

「モータースポーツが公正に安全に行われるサポートをしています。」

モータースポーツ振興にも力を入れていきます。2018年5月には有識者で組織する第2次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループが「モータースポーツ振興策についての答申」を提出しました。

答申では「トップを光らせ、底辺を拡大すること」を主体とした各種振興策を盛り込んでいきます。まさに、今回の表彰を受けたチャンピオンたちの存在が、モータースポーツ全体の振興を牽引することに繋がるのです。

■eスポーツを開催

藤井会長は冒頭、「各カテゴリーで話題の尽きないシーズンだった。デジタルモータースポーツであるeスポーツの開催は新しいモータースポーツの到来を予感させ、世界フリー選手権 (WRRC) の日本開催も大きな話題となった。JAFはこれからも日本のモータースポーツ発展のために全力を尽くしていく」と挨拶しました。



マツダは樹脂と金属の複合をイメージした「ポリメタルグレーメタリック」で独自の質感を表現した



三菱自動車は遊び心いっぱい存在感のあるSUVテイストを表現



日産「DAYZ」は、どこかオシャレに見える「着こなしてる感」を演出したカラーデザインに仕上げた

特別賞

グランプリ

マツダ「MAZDA3」
日産「DAYZ」
三菱自動車の「eKクロス」

日本流行色協会(太田九州夫理事長、JAFCA)は12月18、19日に東京国際交流館プラザ平成(東京都江東区)で「オートカラーアワード2019」を開催しました。オートカラーアワードは、自動車やオートバイなどモビリティのカラーデザインの企画力、形との調和を含むカラーデザインが優れたモビリティを表彰するものです。22回目となる今回、19台12デザインの中からグランプリに輝いたのはマツダの「MAZDA3」、「MAZDA CX-30」。特別賞には日産自動車「DAYZ」と三菱自動車「eKクロス」の2モデルが受賞を果たしました。

■一度見ると頭から離れない

グランプリを受賞したマツダは「質感とコーディネート之妙」をテーマに、プレゼンテーションを行いました。ボディカラーは樹脂と金属の複合をイメージして生まれた新しい質感の「ポリメタルグレーメタリック」を採用、樹脂独特の滑らかな「ヌメリ」感のあるデザインに仕上げられています。

クールな外装とは対照的に、「MAZDA3 ファストバック」ではバガコンディの内装が「大人の色気を放つコンビネーション」を実現しています。「MAZDA CX-30」は上質なネイビープールに抜け感のあるグレーージュの組み合わせの内装で「開放的な内装デザインとのコンビネーション」でモ

ダンなカラーデザインに仕上げました。審査員は「MAZDA3」の内装のコンビネーションを「赤とブルーのニュアンスが、一度見ると頭から離れない」と評価しました。

■双子のようなフルマ

特別賞には日産自動車「DAYZ」と三菱自動車「eKクロス」の2モデルが受賞を果たしました。特別賞に2社が合同で受賞するのは、今回が初めてです。

両社は開発段階で、ボディカラーや内外装、シート表皮などのカラーパレットを共同開発、両社の持つ世界観を色や素材のコーディネートで演出しました。日産自動車のプレゼンター 呉綾花さんは「共同開発は、



19台12デザインがノミネートされた



「スズキクロスビー」は3トーンカラーに挑戦した



川崎重工業「W800STREET」は、ライダー個人のスタイルを際立たせるCMFデザインを追求した



ヤマハ発動機「NIKEN」は、差別価値を視覚化するCMFGのチカラをテーマにマット感やメタリック感のあるカラーを披露



ダイナミックなカラーデザインのダイハツ「ロッキー」



日産自動車と三菱自動車は合同で特別賞の受賞を果たした

マツダの岡本圭一氏が語る

デザイン本部
シニアクリエイティブエキスパート

「若手とベテランの コンビネーション」

「ボディカラーと内装カラーの、内外のコンビネーションを重要視しました。ボディのポリメタルグレーメタリックは成熟したイメージです。一方で内装カラーの開発を若手デザイナーに委ねて若い世代の感性を取り込むことで、マツダの世界観の幅を広げました」

「マツダブランドの定番ボディカラーは赤」というイメージだけでは世界観が狭いと思い、高級感を出しにくい樹脂素材に価値を与える意外性を狙いました。コンクリートむきだしの建築やインテリアのモダンさが若い世代に人気だということで、塩ビ管をイメージしたボディカラーを開発。それぞれの車種の内装は若手デザイナーに任せただけで、今回のテーマは「ベテランと若手のコンビネーション」とも言えます」

「現在はシニアクリエイティブエキスパートという役職で、主に新しいデザインの発信や若手の育成、ノウハウの伝授に取り組んでいます。手取り足取り教えるだけでは若手デザイナーは育たないと考え、マツダの世界観を崩さないような内装カラーを若手独自の考え方や感性で提案してもらいました」

(表彰式挨拶から抜粋)

ディネーションの妙くみ



グランプリを受賞した「MAZDA3」、「MAZDA CX-30」の開発チーム／岡本さんは中央

苦勞より楽しさが多かったプロジェクト。双子のようなクルマが賞をいただき、感無量です」と受賞の喜びを語りました。

■今回はCMFの原点に帰り

審査員は今回のカラーアウオードは「CMF(カラー、マテリアル、フィニッシュ)の原点帰り」と分析。各メー

カーが「時代が変わり、人々が『手足を使って実感する』経験が減っていくことに危機感を持ち『モノに向かわせる』、『リアルに感じさせられるデザイン』を重視する傾向にある」からこそ、今回のオートカラーアウオードでは、CMFという原点に立ち返って「モノの形」をシンプルに表現し、アイデンティティを際立たせるメー

東京モーターショーから名古屋、大阪、福岡 地方モーターショーで賑わう

2019～2020年、「第46回 東京モーターショー2019」(10月24日～11月4日)に続けと、名古屋、大阪、福岡、札幌、仙台で地方モーターショーの開催が相次ぎます。すでに名古屋、大阪、福岡は開催を終え、3会場で合計来場者数は50万人を超えました。1月・2月は札幌、仙台で開催されます。

●11月21日～24日 ●ポートメッセなごや ●来場者 18万3250人(4日間合計)

第21回 名古屋モーターショー



東京モーターショーに続き、「第21回 名古屋モーターショー」が開催されました。東京から名古屋にコンセプトカーが移動し、海外ブランドの最新モデルも展示。加えて地元自治体や各メーカーが連携して「フルマニヒト」(「社会の関係を提案する「あいちー」Sワールド2019」)を同時開催し、体験型イベントとして最新市販車ははじめ安全運転支援システム、自動運転などの各種試乗会なども実施されました。

また、名古屋らしいイベントとして、400㎡ゾーンでラジコンの縦体験会やデモンストラーションを実施した「タミヤRCカーフェスティバル」や、地元の有名和洋菓子店が大集合した「ナゴヤスイーツキット」も好評でした。これまでに以上に体験コンテンツが充実し、若者からファミリーまで幅広い層が入場されていました。

●12月6日～9日 ●インテックス大阪 ●来場者 24万8119人(4日間合計)

第11回 大阪モーターショー



西日本最大級の自動車ショー「第11回 大阪モーターショー」は、国内外の計27ブランドが出演し、コンセプトカーや最新モデルなど、未来のモビリティから人気車種まで一堂に集結し、子どもから大人まで楽しめる内容となりました。

またスペシャルポーターの蝶野正洋氏のトークショーや、7日を「レディースデー」に設定して女性向けのステージイベントが開かれるなど、大阪モーターショーでしか味わえないコンテンツも用意され、体感できる展示には長蛇の列ができていました。

●12月20日～23日 ●マリンメッセ福岡など ●来場者 11万8533人(4日間合計)

福岡モーターショー2019



テーマは「人とクルマがつながる未来」。会場のマリンメッセは国内自動車メーカー社を主体に四輪や二輪のコンセプトカーや最新モデルを展示。国際センターでは輸入四輪17ブランドや輸入二輪ブランドが展示されました。国際会議場の方では「北部九州クルマの歴史と未来展」や「往年の名車展示コーナー」(九州学生製作車両展なども開催されました)。

このほか屋外企画として救急車などの動くクルマの展示に加え、自動運転バスの乗車体験や当日受付で先着順の最新の市販車の試乗会、大人から子供まで楽しめるクルマ企画を開催されました。

2020年 札幌、仙台で地方モーターショー開催 \ 乞うご期待! /

札幌モーターショー2020

●1月17日～19日 ●札幌ドーム

出展者紹介

●出展ブランド ●四輪出展車両 ●二輪出展車両

イベント・企画

ジュニア・プログラミング・ワールド
in SMS

さっぽろスイーツカフェ

北の미래の
クルマの絵はがきコンテスト

GOODSMILE RACING



詳細はWebへ

第12回 東北モーターショー in 仙台 2020

●2月22日～24日 ●夢メッセみやぎ

テーマ

「出かけよう。あなたをワクワクさせる今がある。」



詳細はWebへ

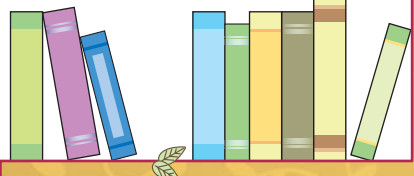
TOKYO AUTO SALON 2020 開催概要



名称	TOKYO AUTO SALON 2020
会期	2020年1月10日(金)、11日(土)、12日(日)
会場	幕張メッセ(日本コンベンションセンター) 国際展示場 ホール1～11・国際会議場・イベントホール・屋外展示場 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1
開催スケジュール	1月10日(金) 9:00～19:00(業界&報道関係者招待日) ※14:00～：一般特別公開 1月11日(土) 9:00～19:00(一般公開日) 1月12日(日) 9:00～18:00(一般公開日)
主催	東京オートサロン実行委員会
運営	東京オートサロン事務局(TASA)
後援(予定)	千葉県／千葉市／一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会(NAPAC)／ 一般社団法人 日本自動車工業会(JAMA)／一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)
協賛	グランツーリスモ／Yahoo!チケット／株式会社タカラトミー／プーマ ジャパン株式会社／ カートレード株式会社／株式会社SPRジャパン／株式会社フェイス／ 頭文字D・MF GHOST／ワイルド・スピード／株式会社KINTO
特別協力	幕張メッセ／株式会社三栄
協力(予定)	ASEA事業部／JAWA事業部／JASMA



詳細はWebへ



CAR Manufacturer
自動車博物館 関連施設
 紹介シリーズ

ダイハツ工業／ヒューモビリティワールド

『Humobility World(ヒューモビリティワールド)』は、「くらしを考える、軽を考える」をテーマに、体験型展示を中心に“楽しみながら学び、体験・発見できる施設”として、小学校の社会科見学をはじめ、一般の方の見学など、広く公開しています。

「くらしを考える、軽を考える」そのための“なるほど”がたくさんつままったヒューモビリティワールドについてご紹介します。ヒューモビリティワールドで楽しめる、学べる、体験できるたくさんのコト。あなたの「知りたい!」もここにあるかも。



学べる

軽自動車の進化の歴史やクルマのしくみがわかりやすく学べる事ができます。



体験できる

ゲーム感覚で楽しめる体験型展示物など、小さなお子様や、大人の方まで楽しめます。



発見できる

実は日本しかない軽自動車の知っているようで、知らなかったことを発見!

3つの魅力

“体験”しながら“発見”、“学ぶ”ことのできるヒューモビリティワールドには魅力がいっぱい。土曜日であればふらっと思いついたときや、雨で屋外では遊べないときに、予約不要で訪問できます。子供はもちろん、大人も満足できる室内見学施設です。



社会見学にも
 雨の日もOK!
 無料駐車場あり



<https://www.daihatsu.com/jp/facilities/hw/>
 QRコードよりヒューモビリティワールドのウェブサイトをご覧いただけます。



ご利用案内

- 一般見学ご利用案内
毎週土曜日に見学することができます。
- 小学校ご利用案内・予約
小学校5年生を対象とした授業の一環としての社会科見学をすることが出来ます。

お客様向けガイドツアーもあります!

詳しくはコチラ



詳しくはコチラ



インフォメーション

所在地 ヒューモビリティワールド
 〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号
 TEL:072-754-3048 ※お電話でのお問い合わせ受付時間 平日(月~金)9:00~17:00

公共交通機関をご利用の場合
 ●阪急宝塚線「石橋阪大前駅」下車、タクシー利用にて約10分。または阪急バス利用にて約15分「ダイハツ本社前」下車すぐ ●大阪国際空港からタクシー利用にて約20分

マイカーをご利用の場合 ※お客様駐車場がございます
 ●中国自動車道／豊中ICより約10分 ●中国自動車道／池田ICより約5分 ●阪神高速11号池田線／池田出口より約5分

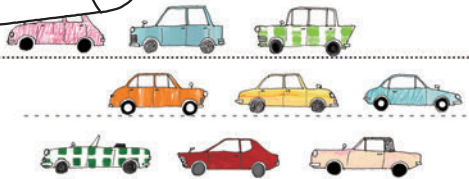
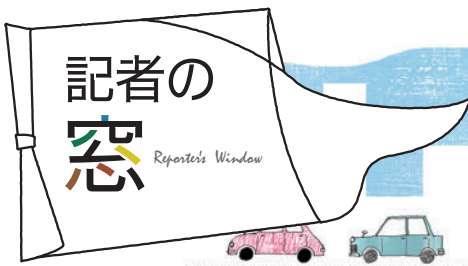


詳細な地図をご覧いただけます。



【資料・画像等提供—ダイハツ工業】





日刊工業新聞社
わたなべ こうじ
渡辺 光太

いつかは納得したいトロッコ問題

⑩12月にある会社の事業説明会に行った。そこで紹介された自動運転システムによれば、「ある条件下では自動運転車両の責任や判断ミスによる事故を起こさない」ことができるようになってきたらしい。あまり意地悪で極端な事例は考えてはいけなかつとも、話を聞いて有名な「トロッコ(トローリー)問題」を思い出してしまった。

⑨「トロッコ問題」とは、すでに亡くなった哲学者フィリップ・ルース・フット氏が提示した思考実験。線路を走るトロッコが、そのまま進めば5人の作業員を轢き、5人を救うために進路を切り替えると1人の作業員を轢いてしまうという状況で、線路の切り替え地点に立つ人物はどう行動すべきかを問うものだ。数年前に米ハーバード大学のマイケル・サンデル教授による授業で同問題が紹介されて話題となつたほか、自動運転を考える中でしばしば議論になってきた。最大多

数の最大幸福を重視する功利主義に乗っ取り、「犠牲者は1人に抑えるべきだ」という声があれば、「切り替えるという自発的な行動は行うべきではない」など多様な意見がある。また、「自動運転の問題と混同して考えるのはよくない」という見方があり、極端な議論を避ける人も少なくない。

⑧ただ、現状の自動運転システムは運転手が責任を負うものが多いため、システム実装において問題を解く必要はないとされる。加えて、今後、自動運転システムが進化し、メーカー側が責任を負うような未来が来ても、倫理的な解を定めることができない可能性がある。システムの中核となる人工知能(AI)などが万能とは限らないし、人間が判断できないのにAIだから解決できるわけでも無い。むしろ、世論や社会としてどう解釈して、許容していくかという問題な気がする。もちろん、判例主義を前提

とする現代では、社会通念の形成には多大な時間がかかるだろう。法的な事例を積み上げる負担を誰が負うかなど、課題は枚挙にいとまがない。

⑦一方、日々取材する中で自動運転の普及を目指し、不断の努力で取り組む人々を目的の当たりにしている。今のところは技術面やコスト面の課題が多い。安全な自動運転の実現に向けて「あらゆる状況を想定していく」(メーカーの幹部)方針だという。トロッコ問題のように難しい選択肢が迫られる状況自体を回避するのが基本だが、その延長線上にはトロッコ問題のようなシナリオがあるかもしれない。そのため、もしかしたら解にたどり着くのではないかと心の片隅で思っている。もしその時が来たら、真っ先に聞いてみようと思う。「トロッコ問題はどんな決着を迎えたのですか」と。そして「その手があったのか」と納得し、脱帽してみたい。



あっ!

まさか!

とっさに!

つい!

うっかり!

気をつけて! ブレーキと アクセルの踏み間違い

急ぐときほど落ち着いて。余裕をもった運転を心がけましょう

詳しくはWebで



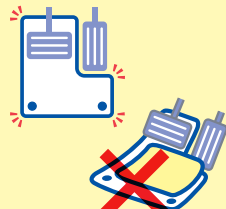
エンジンを掛ける前に、
落ち着いて、ペダルの位
置を確認しましょう。



バック時、料金所での支
払時、体をひねると足が
ズレやすいので要注意。



厚底・サンダル・ヒール
など、運転に適さない
靴・履物は避けましょう。



フロアマットはクルマに
合ったものを使い、重ね
敷きはやめましょう。



あなたの安全運転を支援する「安全運転サポート車(サポカー)」。
その機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。